

「ほめる」「しかる」療育活動の整理 (R2.6.12 叶研修補足資料 by SNA)

	目的 (なにをねらって?)	内容 (どんなことを?)	方法・留意点 (どうやってほめる?・しかる?)
ほめる	本人の発達・成長のために ①「発達的特質 (知徳体)」 ②「個人的特質 (性格)」 (自信 チャレンジ心等)	・できたこと ・できるようになったこと ・その子にとって伸びたこと ・チャレンジしたこと ・いつもと違うよい行い	・具体的に (何をほめられているのかが理解できるように) ・普段からの本人の発達・成長の把握 (必要に応じて、アンケートや標準検査の活用。特に「変化」を見つけるには、 記録の充実 が重要)
	本人の快感情実感のために (喜ぶ 達成感 元気等)	・本人が喜ぶこと ・本人がうれしいこと	・相手の快感情及び快感情表現の アセスメント (保護者や関係機関からの情報収集 & 普段からの観察とスタッフ間での情報の共有 やはりこれも記録が重要)
	本人の承認のために (認める わかってあげる等)	・存在そのものの肯定 ・人格そのものの肯定	・本心でないと見破られる可能性がある (感情も含めた伝えるスキルトレーニングは必須)
	「伝わる」ために・・・		【手 順】 ・まず、注目をさせてから ・相手の目を見て ・照れずに 【スキル】 ・ ノンバーバル の活用 (表情、身振り、周りの環境、+ 人に好感を与える身なりや立ち振る舞い) 【意識】 ・何を誉められたいのかを把握 & 意識をして 【工夫】 ・支援者の気持ちや考えを付け加えて (他児者の同意見が加わると効果倍増! = 心理劇補助自我)
しかる	◎ 危険認識 の是正のために	・危険認識に関わる内容	・必要に応じて感情移入が必要 (ただし、スタンスとしては 冷静 に) ・なぜ危険なのかの理解と次からの行動修正を具体的にインプットする
	◎ 他者への迷惑 是正のために	・他者への迷惑行為に関わる内容	・何が迷惑になっているのかを相手が理解できるようにしかる (時には、迷惑を受けた相手にその時の感情等を伝えさせることも必要)
	◎ 法律違反 の警告のために	・法律違反の内容	・法律違反の根拠を明確に (「こども六法」という書籍の常備)
	△ 不適切 なことの減少のために	・不適切行動の内容	・目的を決して見失わないこと! (感情的になりすぎない) ・減少の目的のために、「どうすればよいのか」を具体的に理解させる
	「伝わる」ために・・・		【手順】 ・まず、 相手の言い分 を聞くことからスタート 【意識】 ・しかっている 理由 を明確にする ・これから どうするとよいのか を明確にする (一緒に考えるもあり) ・ 短く (3秒~20秒)

※ うまくいかないことや失敗はつきものです!しかし、「意識を意識化」できない人は、素人と呼ばれても仕方ありません・・・